能登の里海を守る：海育実践と地域活性化プロジェクト

細谷　夏実　教授
(社会情報学部　社会情報学科　環境情報学専攻)

１．はじめに

2011 年に、我が国で初めて「能登半島の里海里山」が国連の世界農業遺産に認定されました。

私たちのゼミは、能登半島にある石川県鳳珠郡穴水町と隣の能登町で 2015 年から活動を始めました。現在は、里海里山保全につながる活動（地元の椿を活かした椿茶の開発等）や、子どもたちに海の大切さや楽しさを伝える海育（うみいく）の活動を行っています。

こうした取り組みがきっかけとなり、穴水町と本学は 2018 年に包括連携協定を締結しました。

2023 年度も、地域のみなさんと共に能登の里海里山保全や地域活性化、海育に関わる活動を行い、さらに広く情報発信することを目指しました。

２．活動内容

1） 能登での地域連携活動（2023 年 8 月）

この夏はコロナウイルス感染拡大が落ち着いたため、人数や活動の制限なく、ゼミ生と共に穴水町とのと町を訪れ、地域の方々と連携した活動を行うことができました。

穴水町の鹿波地区では､鹿波椿保存会の楠さんから、「鹿波椿茶」製茶過程について説明を受け、実際に椿葉を手もみしてお茶にする行程をお手伝いしました。また､穴水町中居地区では､松村水産の松村さんから、特産の牡蠣養殖や、地元に伝わる伝統漁で使用されていた「ボラ待ち櫓」を保全する取組みについての思いを伺いました。さらに、中居湾で船に乗せていただき、牡蠣の養殖現場やボラ待ち櫓を実際に見学させていただきました。さらに、穴水高校では、生徒のみなさんと様々なテーマについて意見交換会を行い、能登ワインでは製造工場の見学を行いました。



楠さんから、椿葉焙煎方法の説明を受ける



松村さんから、牡蠣養殖の筏の上で養殖についての話を伺う

能登町では、「のと海洋ふれあいセンター」で能登の海の生物観察を行い、海洋深層水製造施設「あくあす能登」では、深層水や塩を製造する様子を見学させていただきました。

現場でのお話や、見学・体験は、能登の里海里山の魅力を深く知ると共に、保全に取り組む際の問題などを地域の方と共有して考える貴重な機会となりました。

2)「能登展」での能登の紹介と物産販売（2023 年 10 月）

ゼミでは毎年、大学祭で「能登展」を出展しています。今年もゼミの学生たちが、夏の能登での活動などをポスターにまとめて紹介しました。

さらに、鹿波椿保存会の方々や穴水高校の生徒さんたちと協同で商品化した椿茶や、あくあす能登で海洋深層水から作られた塩などの物産も販売し、能登の魅力を発信しました。

会場には、教育長をはじめとした穴水町の方もいらしてくださいました。また、能登展にリピーターで来場してくださった方も多く、ゼミの卒業生も訪ねてくれました。ゼミ生は町の法被を着て説明や販売に活躍しました。



ポスター展示を見る来場者の方たち



ゼミ生が穴水町の法被を着て物産を販売しました

３．まとめ

2023 年度は、夏の能登での活動、秋の大学祭について、コロナ前と同様の規模や内容で実施することができました。地域の方たちとの連携を深め、能登の魅力も発信できたと考えています。

〔追記〕

本年元旦に発生した能登半島地震では、穴水町、能登町も甚大な被害を受けました。これまでお世話になってきた方たちも被災されています。また、この地震で、1 月以降に予定していた海育を中心とする地域連携活動は実施を断念せざるを得ませんでした。

穴水町、能登町を含めた被災地域の一日も早い復興をお祈りすると共に、これからも引き続き、能登の里海里山保全、地域活性化に関して、私たちができることからお手伝いをしていきたいと考えています。

その第一歩として、2 月から能登を支援するための募金活動を開始し、3 月末には能登を舞台とした映画（「さいはてにて」）の上映会を開催しました。